

マスク4万枚を 県医師会に寄贈

東洋産業と
アンツジャパン

サージカルマスクを共同で製造販売している東洋産業（安八郡輪之内町大藪）とアンツジャパン（岐阜市金町）が14日、新型コロナウイルス対応に当たる県内医療従事者を支援しようと、マスク4万枚を県医師会に寄贈した。

両社は岐阜信用金庫、県県産業経済振興センターの支援を受けて昨年6月にマスクの製造に乗り出した。繊維製品の卸売りを手掛けるアンツジャパンが不織布素材を調達し、東洋産業が本業の燃糸加工のノウハウを生かして輪之内町内の工場でマスクを製造。「ぎふマスク」として県内医療機関を中心に供給しており、来月から生産能力を月産60〜70万枚に増強する。



河合直樹会長（左端）にマスクを贈った村瀬公一社長（中央）と加納昌弘専務＝岐阜市藪田南、県医師会館

東洋産業の加納昌弘専務とアンツジャパンの村瀬公一社長が、同市藪田南の県医師会館を訪れ、県医師会の河合直樹会長に目録を手渡した。加納専務は「コロナ対応の最前線で使ってもらいたい」、村瀬社長は「医療従事者の声を聞きながらマスク作りを進めている」と話した。河合会長は「県産マスクはとても心強い。県内医師会を通じて医療機関に贈りたい」と感謝した。

（山本貴史）